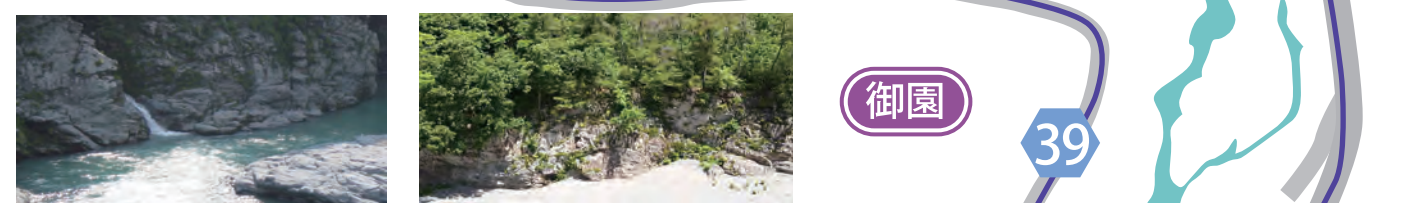
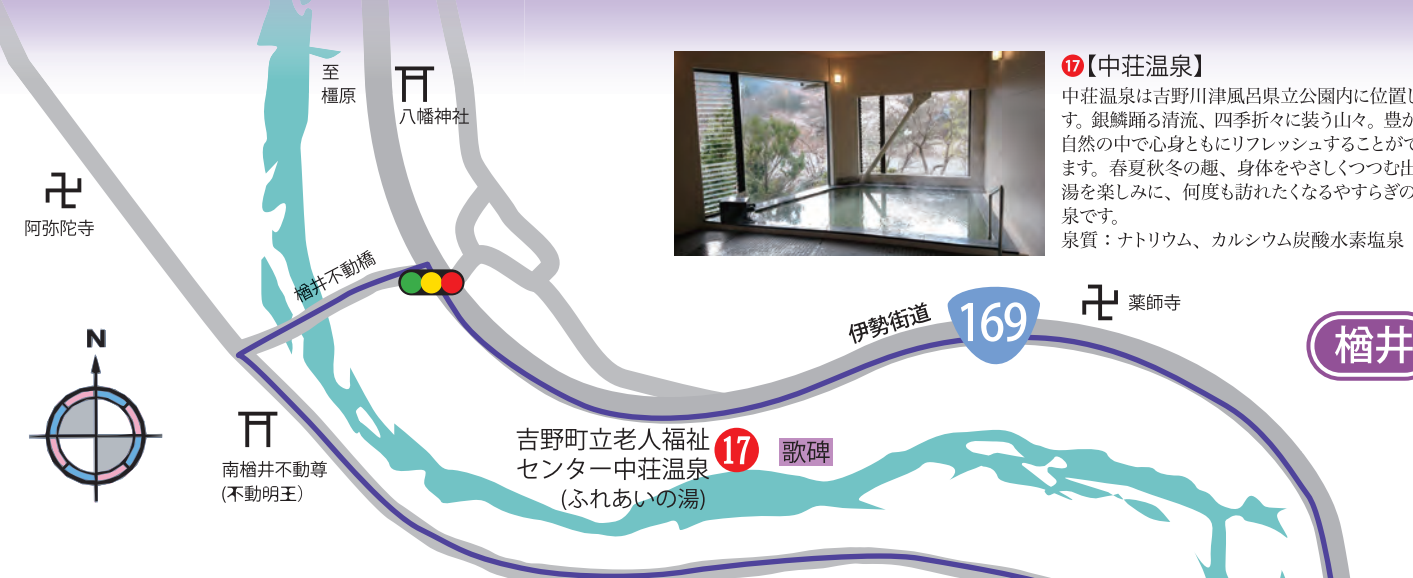
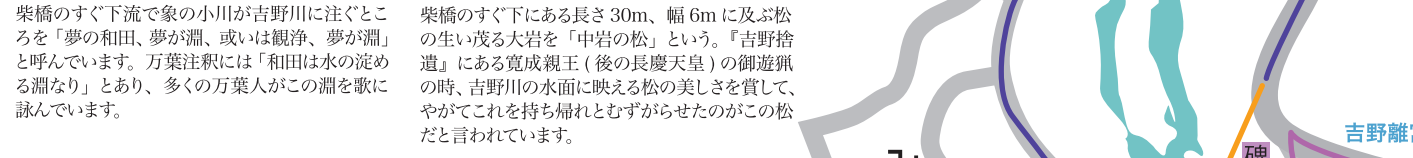


◆いにしえの人が愛した「万葉の郷」を遊歩道で結びます◆

中荘地区には吉野川をはじめとした清らかで豊かな自然と古墳時代からの遺跡や数十に及ぶ万葉歌碑が散在します。そんな豊かな歴史文化や自然を後世へ受け継ぐため、今回の宮滝遺跡周辺の整備をきっかけに中荘7地区にある神社を中心とした観光スポットを回遊できる遊歩道の整備をすすめてまいります。



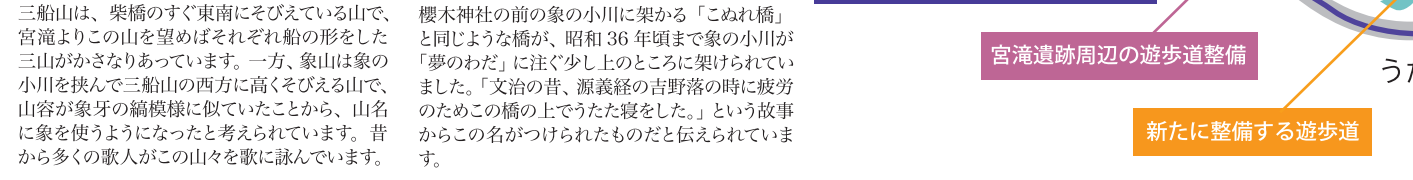
17【中荘温泉】
中荘温泉は吉野川津風呂県立公園内に位置します。銀鱗踊る清流、四季折々に装う山々。豊かな自然の中で心身ともにリフレッシュすることができます。春夏秋冬の趣、身体をやさしくつつむ出で湯を楽しみに、何度も訪れたくなるやすらぎの温泉です。
泉質：ナトリウム、カルシウム炭酸水素塩泉



2【大谷家(旧家)】
菜摘「大谷家」は、壬申の乱において天武天皇を率いた村國運男衣を祖としており、当家には古文書が多い。吉野に源義経が逃れたとき30、40日もこの村國運男衣で滞在しました。また、静御前も逗留したとも言われ、初音の叔(矢を背や腰につける用具)、徳利などがあります。



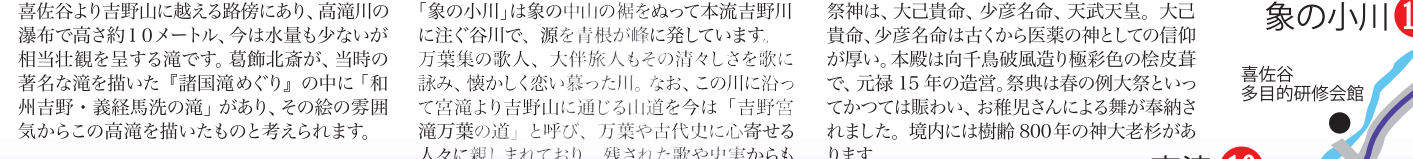
1【吉野歴史資料館】
「吉野歴史資料館」には、縄文、弥生、飛鳥、奈良時代と異なった年代の遺跡が見つまっている宮滝遺跡の発掘成果および吉野離宮関係の出土遺物や復元図が展示されています。



3【静井戸(二つ井戸)】
南菜摘にあり、兄源頼朝に追われた弟源義経と別れた静御前が、この井戸でお化粧をされたとも言われ、また静御前がこの世をはかなんで身を投げたとも言われています。



4【華籠神社】
南菜摘にあるお宮。昔吉野山の守子大明神(現吉野山吉野水分神社)の某君が花籠を造り、その花畑にて花を摘まれ天武天皇を慰められたところ、大宴に帝はお褒めになられました。天武天皇が崩御された後、農耕の繁栄と帝を崇めるため村國姓一統の氏神としました。また、静御前がこの土地に生まれ、追っ手から逃げるため花を摘みながら潜んでいたとも言われています。



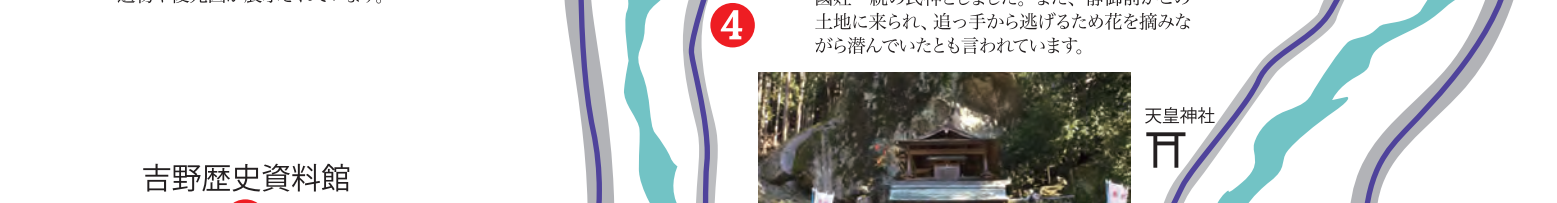
5【岩神社】
岩神社の祭神は、岩徳押開神と伝えます。岩徳押開神は、『古事記』に記載される国津神石押分のこと、この神は、神武東征に際して吉野で神武天皇を迎え、「吉野の国菓の祖」とされ、『日本書紀』では「吉野の国菓部の始祖」とされています。同社は現在矢治の氏神です。



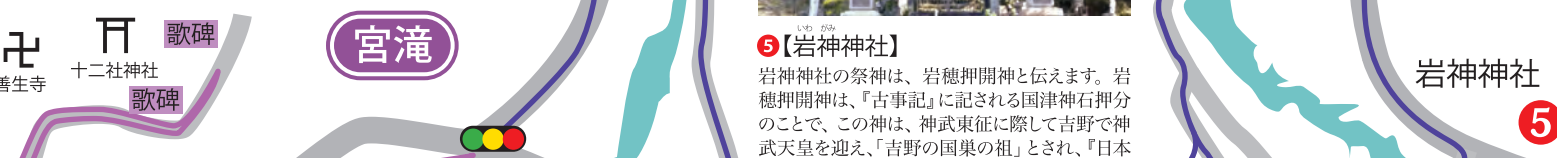
6【式内川上鹿塩神社】
醍醐天皇の延喜2年(西暦902年)に制定された『延喜式神名帳』に記載された官幣小社と称された近郷で最も格の高い最古の式内社です。人里離れた川上村と檜尾の境界にある五社峠の頂上に鎮座され、氏子は中荘郷だけでなく川上村、吉野町、東吉野村から下市町、大淀町の広範囲に及んでいました。祭神は、天照皇大神、瓊瓊杵尊、忍穂耳命であるとされています。

◆いにしえの人が愛した「万葉の郷」を遊歩道で結びます◆

中荘地区には吉野川をはじめとした清らかで豊かな自然と古墳時代からの遺跡や数十に及ぶ万葉歌碑が散在します。そんな豊かな歴史文化や自然を後世へ受け継ぐため、今回の宮滝遺跡周辺の整備をきっかけに中荘7地区にある神社を中心とした観光スポットを回遊できる遊歩道の整備をすすめてまいります。



17【中荘温泉】
中荘温泉は吉野川津風呂県立公園内に位置します。銀鱗踊る清流、四季折々に装う山々。豊かな自然の中で心身ともにリフレッシュすることができます。春夏秋冬の趣、身体をやさしくつつむ出で湯を楽しみに、何度も訪れたくなるやすらぎの温泉です。
泉質：ナトリウム、カルシウム炭酸水素塩泉



2【大谷家(旧家)】
菜摘「大谷家」は、壬申の乱において天武天皇を率いた村國運男衣を祖としており、当家には古文書が多い。吉野に源義経が逃れたとき30、40日もこの村國運男衣で滞在しました。また、静御前も逗留したとも言われ、初音の叔(矢を背や腰につける用具)、徳利などがあります。



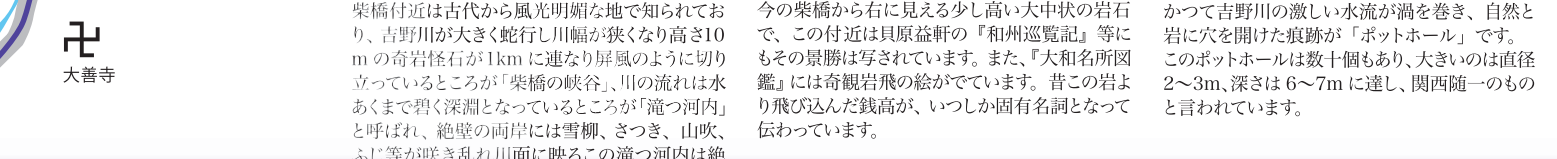
1【吉野歴史資料館】
「吉野歴史資料館」には、縄文、弥生、飛鳥、奈良時代と異なった年代の遺跡が見つまっている宮滝遺跡の発掘成果および吉野離宮関係の出土遺物や復元図が展示されています。



3【静井戸(二つ井戸)】
南菜摘にあり、兄源頼朝に追われた弟源義経と別れた静御前が、この井戸でお化粧をされたとも言われ、また静御前がこの世をはかなんで身を投げたとも言われています。



4【華籠神社】
南菜摘にあるお宮。昔吉野山の守子大明神(現吉野山吉野水分神社)の某君が花籠を造り、その花畑にて花を摘まれ天武天皇を慰められたところ、大宴に帝はお褒めになられました。天武天皇が崩御された後、農耕の繁栄と帝を崇めるため村國姓一統の氏神としました。また、静御前がこの土地に生まれ、追っ手から逃げるため花を摘みながら潜んでいたとも言われています。



5【岩神社】
岩神社の祭神は、岩徳押開神と伝えます。岩徳押開神は、『古事記』に記載される国津神石押分のこと、この神は、神武東征に際して吉野で神武天皇を迎え、「吉野の国菓の祖」とされ、『日本書紀』では「吉野の国菓部の始祖」とされています。同社は現在矢治の氏神です。



6【式内川上鹿塩神社】
醍醐天皇の延喜2年(西暦902年)に制定された『延喜式神名帳』に記載された官幣小社と称された近郷で最も格の高い最古の式内社です。人里離れた川上村と檜尾の境界にある五社峠の頂上に鎮座され、氏子は中荘郷だけでなく川上村、吉野町、東吉野村から下市町、大淀町の広範囲に及んでいました。祭神は、天照皇大神、瓊瓊杵尊、忍穂耳命であるとされています。